

受難の主日(枝の主日)

■主のエルサレム入城の記念 福マタイ 21・1-11

■ミサ

I イザヤ 50・4-7

II フィリピ 2・6-11

福 マタイ 27・11-54

今まで毎年私たちは主の受難の主日を記念してきましたが、今年は例年と異なる形で主の入城の記念を行うことになりました。本来なら、手に枝をもってミサの前に主の入城の記念の行列をすることになっていますが、創造力を駆使して、主の入城を黙想しながら、今日の典礼にあずかっていきたいと思えます。

「ダビデの子にホサナ。主の名によって来られた方。祝福があるように。いと高きところにホサナ。」枝を振り飾ってイエスを迎えた群衆の歓呼声が聞こえてきそうです。主イエスはどのような心情でエルサレムに入城されたのでしょうか。

人々はイエスに様々な期待を胸に膨らませながらついていたことは容易に想像ができます。しかし、イエスはエルサレムにご自身に何が起きるかをご存知の上で入城されたわけですから、どのような心情だったのでしょうか。

私達も今日から聖週間に入りましたが、主のエルサレム入城から主の復活まで、主イエスと共に十字架の道を歩みながら、この聖なる一週間で静かな心で全世界の兄弟姉妹と共に心併せて記念していきましょう。

今日主の入城及び主の受難の場面が読まれます。今度こそゆっくり時間を取って、イエスの受難を黙想し、吟味していきたいものです。イエスが受けられた侮辱、痛み、苦しみ、あざけり、ののしりをわが身のように感じ、それが自分の祈り、信仰の糧となれたらと思えます。

確かに、今私達も大きな不安や恐怖の中に置かれています。だからこそ今年は例年と異なって一層意義深い聖週間になると確信しております。

わわしたち一人一人が困難の中にも、主イエスの受難を思い出し、主イエスとともに十字架の道を勇気と希望をもってともに歩いていくことができるようお祈りしております。